

授業科目名	解剖学(人体解剖学)	担当教員	教授 藤谷 昌司 他
開講年次・学期	2年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義・実習	時間数/単位数	124時間
授業概要			
<p>解剖学は人体の構造を探求し、認識する学問であり、医学のもっとも基本をなすものである。人体解剖学は、1年次あるいは2年次の4月に学んだ組織学・内臓学・筋・骨格・末梢神経学、および平行して行われる発生学、中枢神経学を基礎として、臓器・器官を系統別に分けつつも、互いに密接に関連づけながら肉眼(マクロ)レベルにおける人体の構造の概要を学ぶ。4月おわりから、上記の学習による基礎知識とそれを通じて得た心構えを持って、篤志献体いただいたご遺体による人体解剖学実習に臨む。有意義な実習を実現するためには、各自の十分な予習を大前提とする。講義では各系統のつながりを理解できるよう自ら工夫し、さらに実習では、自らが精緻な剖検を試みることによって、ご遺体を教科書として人体の構造についての理解を確実なものとしてほしい。</p> <p>またこれらを通じて、全ての医学専門科目の基礎として、英語を含めた専門用語の習熟が極めて重要であることを認識して、地道に学習を進めていくことが大切である。実習では常に敬虔・感謝の念を持ってご遺体に臨むよう心がけること。</p> <p>昨年度より、active learningの一環として実習についてのpresentationを時間内に3回行うことを必須としている。班内コミュニケーションが重要で、ビデオ係、説明係等、役割分担などの取り決めの準備を含め、チームワークを高めることが極めて重要である。</p>			
GIO(一般目標)			
<p>全ての専門科目学習の基幹となる人体に関する知識を修得するために、正常な体の形態と構造を系統的に理解した上で、各系統の関係を有機的かつ三次元的に把握し、構造と機能の関連について理解できる能力を養う。</p>			
SBO(行動目標)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各系統を構成する個々の器官の形態や構造および互いの立体的な位置関係を正しく理解し、解剖学用語を用いて説明する。 2. 各器官の構造や系統の構成を機能と関連づけて説明する。 3. 人体局所の剖出を行って三次元的に理解した上で、その肉眼的所見を説明する。 4. 正常な構造における性差や個体差について説明する。 			
成績評価の方法			
<p>人体解剖学では筆記試験、口頭試問および必修英単語筆記試験を実施し、上記目標の到達度により評価する。毎回の実習では、担当班を決めて計3回のプレゼンテーションを行う。そちらの様子も評価する。</p>			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
<p>指定図書 寺田・藤田(著)解剖実習の手びき(改訂11版)南山堂</p> <p>教科書・参考書 塩田・秋田(監訳)グレイ解剖学 原著第3版, エルゼビア・ジャパン 坂井(監訳)プロメテウス 解剖学コアアトラス 第3版 医学書院 相磯(訳)ネッター解剖学図譜 学生版, 丸善 Rohen/横地(著)解剖学カラーアトラス, 医学書院 Gray's Anatomy for Students 3rd Ed. (Elsevier, Churchill Livingstone) Moore, Dalley, & Agur: Clinically Oriented Anatomy, 7th Ed. (Lippincott, Williams & Wilkins)</p>			
コア・カリとの関連			
C2(2)組織・各臓器の構成, 機能と位置関係			